

叙述に即して文章を読み、 要旨を捉えることができる生徒の育成

— 段落の役割やつながりを捉えて読む指導の工夫を通して —

特別研修員 国語 都丸佑磨 (中学校教諭)

生徒の実態

- 説明的な文章を読むことに苦手意識を持っている。
- 要旨を捉える力が十分身に付いていない。
- 文章構成を意識して読むことが少ない。

実践事例：光村図書 中学国語1年「幻の魚は生きていた」

段落の役割やつながりを捉えて読むための指導の工夫

手立て①

説明的な文章における段落役割シートを使い、段落の役割について考える！

序論・本論・結論の提示モデルを示したシートをもとに、段落が文章の中でどのような役割を果たしているかを考え、段落相互の関係をつかむ。



	本論
序論	○
結論	○
中心となる文	○
段落の始めや終わり	○
接続語に続く内容	○
「つまり」、「しかし」	○
内容が続くこと	○
題名とつながりのあ	○
繰り返し出てくる言	○
序論	○
結論	○
中心となる文	○
段落の始めや終わり	○
接続語に続く内容	○
「つまり」、「しかし」	○
内容が続くこと	○
題名とつながりのあ	○
繰り返し出てくる言	○

手立て②

要点・要約・要旨ばかりシートを使い、形式段落の要点について考える！

要点・要約・要旨の三つの言葉の使い分けや、要点を捉えるための中心となる文の見つけ方が書かれたシートをもとに、形式段落の内容を把握する。



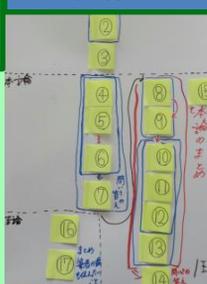
- ① 中心となる文を見つける
↓
中心となる文を見つけたら、その前後の文も読んでみる。
(1) 段落の始めや終わり
(2) 接続語に続く内容
※ 「つまり」、「しかし」
な内容が続くことが
(3) 題名とつながりのあ
(4) 繰り返し出てくる言
- ◇ 要点をとらえるには？

手立て③

読み取りを基にした意見交流を行う！

4人グループになり、段落の役割や内容を根拠にして、意味段落をまとめる。意見交流をしながら段落間のつながりを考えることで、具体例を用いて説明したり補足したりしている部分と、筆者が伝えたいことの中となる部分を捉える。

文章構成図



形式段落から意味段落へと、大きなまとまりを考えて読み取ることで

- 文章の中心となる部分と付加的な部分との読み分けが明らかになる。
- 要旨をまとめるために必要な段落や文を選択することができる。

要旨を捉えることができる

成果(○)と課題(●)

- 段落の役割や形式段落の要点を捉えてから意味段落のまとまりを考える活動を行うという授業の流れにより、「文章の内容が分かりやすい」と感じた生徒が多く、説明的な文章の読み方が身に付いたと考えられる。
- 段落の役割や形式段落の要点を捉える活動を行ったことで、具体的な根拠を挙げながら文章構成についての意見交流ができ、意味段落のまとまりを押さえ、要旨をまとめることができていた。
- 要点や要約文を書き出す時間の個人差が大きかった。「書くこと」の指導とも関連させながら、目的に沿った書き方について今後も計画的に指導を重ねていく必要がある。

